

Title	大学院社会学研究科紀要30周年記念号発刊に寄せて
Sub Title	Foreword
Author	宮家, 準(Miyake, Hitoshi)
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	1993
Jtitle	慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要 : 社会学心理学教育学 (Studies in sociology, psychology and education). No.36 (1993.)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	30周年記念号 : 巻頭言
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000036--004

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

大学院社会学研究科紀要 30 周年記念号発刊に寄せて

社会学研究科は昭和 26 年に、社会学専攻修士課程をもつ大学院として開設されました。2 年後の昭和 28 年には心理学を社会学とならんで専攻部門としたうえ、博士課程も増設されました。その後、昭和 36 年に教育学専攻修士課程を、昭和 38 年に同博士課程を増設して現在に至っています。さらに昭和 37 年には研究科の学事を報告し、研究科委員ならびに新進学徒に研究発表の機会を与える目的で『大学院社会学研究科紀要』が刊行されました。従って、社会学研究科が現在の体制に組織され紀要が刊行されてから、約 30 年の歳月がたったことになります。

この 30 年の間に、社会学研究科は規模を拡大するとともに、充実した研究・教育組織に発展してきました。設立時から、研究科委員は文学部人間関係学科の教授だけでなく経・法学部の社会学関係の教授にも参加いただいております。多様な研究教育体制をとっております。それに対応して、院生も文学部に限らず塾内外から多様な履歴・興味をもつ者が集まっています。また、社会学・心理学・教育学の 3 専攻とも学問の進展により、対象としている研究教育の範囲が広がり、多様な研究領域をカバーするようになってきています。それにとまって院生数も増加し、平成 5 年度現在では院生は修士課程 71 名、博士課程 44 名を数えるまでになっています。これには 18 名の留學生が含まれており、アジアを中心に毎年多くの国から多様な興味を持つ院生が研究に加わってきています。また、訪問研究員・訪問教授として訪れる海外の研究者も多く、研究科委員との活発な共同研究活動が行われています。

社会学研究科紀要は創刊当初は年 1 回発行されていましたが、研究科の発展による投稿研究論文の増加に伴い、平成 3 年度から年 2 回発行されるようになってきました。この記念号は、社会学研究科において社会学・心理学・教育学からなる 3 専攻の協力体制が確立し、社会学研究科紀要が刊行されることになって以来 30 周年を迎えるにあたり、これを記念して発行することになったものです。この記念号では、通常号と同じスタイルの論文のほかに、社会学専攻・十時巖周、心理学専攻・小川隆、教育学専攻・斎藤幸一郎の 3 専攻それぞれの名誉教授の方々に社会学研究科の創立、歴史、紀要創刊の事情などに関するエッセイの執筆をお願いいたしました。これらは社会学研究科設立や紀要創刊に関する貴重な記録でもあって、今後の社会学研究科を考える上で大変役立つものと思います。また、この記念号に収録する研究論文は、現在の社会学研究科の活動状況を示すため、現委員の方々から論文を募りました。御寄稿いただいた 14 編もの多彩な論文により、本誌は現在の社会学研究科の研究領域の広がりや活発な状況に相応しい充実したものとすることが出来ました。本誌が社会学研究科の過去を知り、今後の研究・教育活動への新たな第一歩となることを願います。

平成 5 年 9 月

大学院社会学研究科委員長 宮 家 準